

□は健康のもと Vol.150

超高齢社会のインプラント治療② ～失われた歯の代役～

失ってしまった歯の本数が増えるのは、高齢の方の一般的な傾向と考えられます。一定数の歯を失うと、うまく食事をとることが難しくなります。それでも入れ歯などを使用せずに少ない本数の歯で生活していると、残っている歯への負担は大きくなり、その歯の寿命を短くしてしまいます。したがって、歯科的には、歯を失い、歯並びの一部が欠けた状態をそのままにしておくのは、歯のない範囲を広げてしまう進行性の慢性的な疾患であると考えられます。

厚生労働省の調査で、噛み合せが安定している人、不安定な人、全く失ってしまっている人を比べたところ、その方々の生存率に差が見いだされたことが明らかになりました。同様に噛み合せを失ってしまった方々でも、入れ歯を使いこなしている人と使っていない人に生存率の差があることもわかっています。

したがって、歯を大切にしておいて長持ちさせることは、長生きにつながり、さらに入れ歯やインプラントで失われた歯を回復し、□を健康な状態に保つことは、健康長寿のための大事な要素と考えられます。（次回に続く）



奥羽大学歯学部附属病院
総合歯科 教授 関根 秀志

